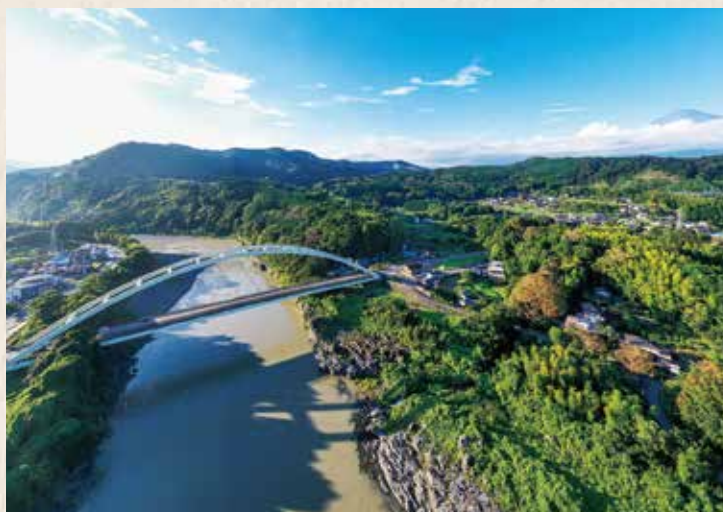


富士宮の歴史

自然環境編

Natural Environment and Society



静岡県富士宮市

富士宮の歴史

Natural Environment and Society

自然環境編

【表紙写真】

- ・朝霧高原から望む富士山
- ・空から見た富士川の蓬莱橋
- ・市の鳥ヒバリ（大瀨肇氏提供）
- ・大鹿窪遺跡の発掘調査区全景

ご挨拶



富士宮市は令和四年六月一日に市制施行八〇周年の節目を迎え、新しい時代が始まる記念すべき年を初年度として、自然環境編・民俗編・通史編Ⅰ～Ⅲの計五冊からなる『富士宮の歴史』を刊行いたします。編さんにあたっては、図や写真をふんだんに利用し、親しみやすいように心掛けました。

このたび刊行する『富士宮の歴史 自然環境編』は、いわば富士宮市の歴史においてその土台となるものです。富士宮市の大地の成り立ちから始まり、この土地の気候、ここに住まう動植物、そして自然とともに生きてきた人々と自然災害の歴史に至るまで、幅広い内容となっております。お子様からご年配の方々にいたるまで多くの方々に手に取っていただき、富士宮市の自然と、それにまつわる歴史を知るよき手引書としてご活用いただければ幸いです。

結びに、本書の刊行に際して調査、執筆、編集にご尽力いただきました市史編さん委員および執筆員の皆様をはじめ、資料の提供や調査にご協力をくださいました皆様方に心より感謝申し上げます。

令和五年三月

富士宮市長 須藤 秀忠

はじめに

このたび『富士宮の歴史 自然環境編』のまとめ役を務めさせて頂いた。その過程で改めて認識させられたのは、富士宮の自然の豊かさと多様さ、そして自然と向き合って生きてきた住民の叡智と強靱さである。

富士宮の自然は、地球上の特異点と言える大地の成り立ちと深く関係している。なぜ地球上の特異点なのか。それは富士宮とその周辺地域が、現在の地球上で唯一、活動的な二つの火山列島（日本列島と伊豆・小笠原諸島）が地球内部のプレート運動によって衝突を続けている場所だからである。そして、その大地の衝突がもたらす激しい地殻変動や断層活動が積み重なることによって、地域の西部には険しい天子山地が形成され、南部にはなだらかな羽鮒・星山丘陵が隆起し、東部には大量のマグマが噴出して優美な富士山の火山体が築かれた。こうして市町村としては日本一の標高差をもつ富士宮の土台がつくられたのである。

標高の高い山地は上昇気流を生んで大量の降雨・降雪をもたらし、それは恵みの水となって大地を流れ、地下水となって地下を潤した。その結果、森林が生い茂り、そこに貴重な動植物が育まれた。それらの豊かな資源と温暖な気候に魅了されて、富士宮は旧石器時代から人々が暮らす場所となり、さまざまな産業が

成立し、多くの特産物が生まれ、素晴らしい大地の景観とあいまって大勢の観光客や登山客が訪れる場所となった。そうした中で、さまざまな信仰や文化・芸術が誕生・発展し、それに伴って数々の貴重な資産が形成された。

もちろん人間にとって都合の良いものだけが自然の姿ではない。活動的な大地は、ときに大地震や噴火を引き起こし、活断層が大地を引き裂き、山が崩れ、集落や農地が火山灰や溶岩に埋め尽くされることもあった。また、豊かな降水量の反面、豪雨がたびたび発生し、土石流や洪水が人里を襲った。しかし、富士宮の人々は、そうした悲惨な経験を教訓としながら、叡智をふりしぼって対策を徐々に進化させ、災害を克服する術を身につけてきた。

以上の結果、現在みられる富士宮の自然環境と、そこに息づく地域社会が成立した。本書では、はるか一七〇〇万年前の過去にさかのぼって富士宮がたどった物語と、その結果としての現在の姿を、さまざまな視点・材料から過不足なく記述することを目指した。富士宮に住む人々が、本書を通じて少しでも郷土の自然と社会への理解を深め、それに対する誇りを感じてもらえるならば、これ以上の喜びはない。

市史編さん委員 小山 真人

ご挨拶
はじめに
目次
例言

第一編 富士宮の自然環境

第一章 富士宮の大地

第一節 富士宮の大地の成り立ち	2
第二節 南から来た古い海底火山	8
第三節 最後の海と最初の陸地	18
第四節 富士火山の誕生と成長	30
第五節 活断層が作った富士宮の地形	54
第六節 大地の恵み―地下水と地下資源	66

第三章 富士宮の植物

第一節 どんな植物があるか	96
第二節 富士山の植物の分布	97
第三節 富士宮市の特徴的な地域と植物	102

第二章 富士宮の気象

第一節 富士宮市の気象観測	78
第二節 富士宮市の気候	80
第三節 富士山頂	90

第四章 富士宮の動物

第一節 どんな動物がいるか	108
第二節 富士宮市の野生動物（哺乳類）	112
第三節 野鳥の仲間	116
第四節 トカゲ・ヘビの仲間	122
第五節 カエル・サンショウウオの仲間	124
第六節 富士宮市の魚	126
第七節 富士宮市の昆虫	130

第二編 富士宮の自然と向き合った人々

第一章 先史～中世：自然を生かした暮らしと信仰心のめばえ

第一節	火山噴出物からわかる遺跡の年代と分布	136
第二節	後期旧石器時代（四万年前～一万六〇〇〇年前）	146
第三節	縄文時代（一万五八〇〇年前～二四〇〇年前）	148
第四節	弥生時代（二四〇〇年前～一八〇〇年前）	156
第五節	古墳時代（一八〇〇年前～一三〇〇年前）	160
第六節	古代・中世における自然と人の関わり	164

第二章 近世～現代：自然の活用と防災

第一節	富士宮を襲う自然災害とその対策	168
第二節	富士宮を襲う地震	176
第三節	白鳥山の崩壊と地震災害	182
第四節	富士山大沢崩れと砂防対策	186
第五節	治水と利水（用水路の整備・ダム・洪水への備え）	194
第六節	震災対策（用水・発電・節電）	200
第七節	富士山の火山防災対策	204

富士宮の自然史年表

参考文献

資料の出典および提供者

関係者一覧

索引

例 言

- ・本書は令和元年度より開始した市史編さん事業の成果として刊行するものである。
- ・本書の総括は市史編さん委員・小山真人（静岡大学未来社会デザイン機構教授）が担当し、執筆分担は巻末に記した。
- ・本書における年月日の表記は原則として和暦と西暦を併記し、明治五年二月二日（一八七二年二月三日）以前は和暦年月日（西暦年月日）と表記し、以降は和暦年（西暦年）月日と表記した。
例…宝永四年一〇月四日（一七〇七年一〇月二八日）
平成二三年（二〇一一）三月一五日
- ・本文中の写真・図・表には、「写真1-1」のように章ごとに通し番号を付した。写真の撮影者や提供者、図・表の作成者、資料所蔵者、転載・引用した図の典拠などは巻末に記した。ただし、執筆者や富士宮市の提供したものについては提供者名を省略した。
- ・本書の参考文献は巻末にまとめ、本文中で参照する場合は（富士宮市一九七二）などと表記した。